

## 渡辺崋山と大麻生

大麻生公民館 安藤弘孝

歴史上の渡辺崋山については多くの方々が知っておりますが、崋山と大麻生の関係については、あまり知られていないのではないのでしょうか。

崋山は、天保二年十一月、田原藩の三宅侯の命により、三ヶ尻の地を調査に来ました。崋山にとっては三ヶ尻は未知の土地であったので、大麻生の名主、吉澤吉兵衛宅へ身を寄せたのでした。この時に崋山の生活した家が現在でも残っています。

大麻生駅通りを北進し、大塚医院前の前に「松蘿園」があります。

これは崋山が滞在中に調べ物をまとめたり、絵を描いたりする時に使用した建物です。県指定文化財「双雁図」もこの「松蘿園」で描いた物です。

建物は、間口四間、奥行二間で、外観は質素で当初の頃と多少変わっておりますが、天井は高く欄間が多く取り入れられ、崋山が寝泊まりした頃の物がそっくり残り、江戸時代の部屋の様子を知る上で貴重なものです。特に床の間は二つあって壁には紅葉の葉が散りばめてあり明障子の腰束などは扇をたたんだ形で作られており、当時のままになっております。庭園、樹木、庭石などそのままの配置で残されております。

崋山が住んだ現存する建物は、日本でたった一ヶ所「松蘿園」だけで貴重な文化遺産であります。



(熊谷市公協だより 第38号 平成15年より)